

今回の調査区でみつかった土坑〔人が立っている位置〕(北から)



東海環状自動車道 発掘調査だより

いなべ編 No.16

三重県埋蔵文化財センター

2023.10.1

弥生時代の集落の範囲が明らかに！ 《下平大野B遺跡》



下平大野B遺跡の遠景(上空の南から)

まとめ

下平大野B遺跡では、これまでの調査で、竪穴建物や掘立柱建物などのあとがみつき、弥生時代中期(約2,300年前)の集落が存在していたことがわかりましたが、その範囲ははっきりしていませんでした。今回、遺跡の北側を調査したところ、建物のあとはみつきならず、集落の範囲の北限は、今回の調査区の南側あたりまでであることが判明しました。

集落は、田切川から比高約20mの台地上に位置しています。水源の近くでありながら、水害などの影響を受けにくいところを生活の拠点に選んでいたことがわかります。

しかしながら、この集落は小規模なもので、営まれた期間も短いことが分かってきました。なぜ、少数の人たちがこの地へやってきて、またすぐにどこかへ行ってしまったのか、約2,300年前を生きた先人たちのくらしぶりを発掘された遺構・遺物から想像していただければ幸いです。

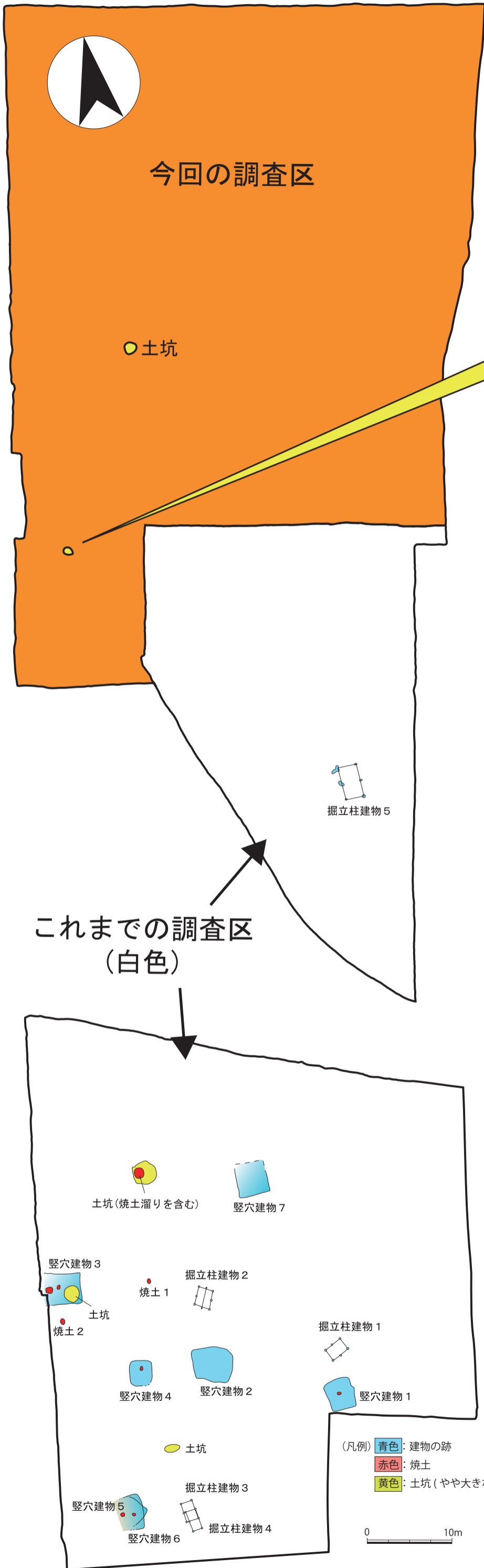
なお、東海環状自動車道の建設に伴う大規模な発掘調査は、今回が最後となります。

これまでの調査にご協力をいただいた方々に改めて御礼申し上げます。

遺跡名 下平大野B遺跡(第5次)
原因事業 東海環状自動車道建設事業 調査委託 国土交通省中部地方整備局 調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035 <https://www.pref.mie.lg.jp/MAIBUN/hp/>
いなべ整理所 〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野454番地
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、東海環状自動車道建設事業に伴い、令和元年度から、いなべ市北勢町下平・向平にある下平大野B遺跡の発掘調査を行ってきました。今回の第5次調査により、弥生時代の集落の範囲がおおよそ明らかとなりました。



今回の調査でわかったこと

- ・今年度は、調査区面積 3,600 m²の調査を行いました。
- ・遺構は、土坑（やや大きな穴）や柱穴状の小さな穴が数多く見つかりました。
- ・今回の調査区では、明確な建物のあとはみつかりませんでしたが、弥生土器が出土しており、弥生時代の集落の縁辺部に相当すると考えられます。
- ・今回の調査結果から、下平大野B遺跡における弥生時代の集落は、比較的コンパクトなものであったと推定できます。
- ・この他、縄文時代のものの可能性がある遺構も見つかりました。

縄文時代とみられる遺構（土坑）

- ・平面形は直径約 1 m の歪な円形で、深さ約 40 cm です。
- ・中央の小さな穴は、直径約 20 cm、深さ約 30 cm です。
- ・遺物は何も出土しなかったため、時代や性格は不明ですが、縄文時代の動物を捕らえるための落とし穴である可能性があります。
- ・底の小さな穴は、動物が掛かりやすくなるよう、杭を打ちこんでいたところかもしれません。



竪穴建物と掘立柱建物の例（想像図） 三重県埋蔵文化財センター作成